

登山道荒廃状況等の調査結果概要について

環境省九州地方環境事務所

1. 調査の概要

登山道を踏査し、平成22年度に実施した第1回調査結果と比較して登山道の浸食等荒廃状況を把握した。

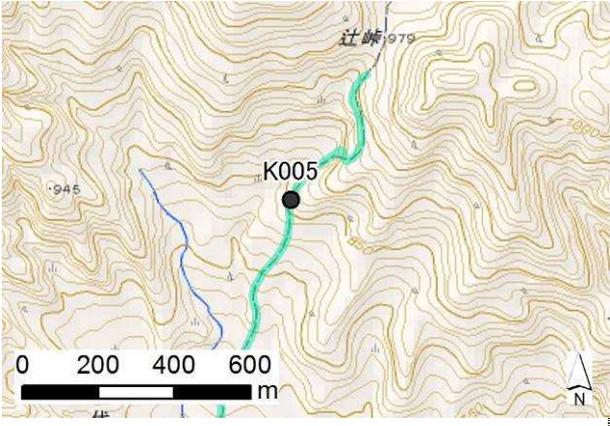
2. 調査結果



図：平成29年度調査位置図

平成29年度調査した9路線のうち、花之江河ヤクスギランド線、湯泊線、尾之間線で浸食等荒廃箇所が比較的多く確認された。平成22年度の第1回調査時より荒廃が進行した箇所も見られた。降雨時の流水による浸食、法面の露出が見られ、根の浮き上がりが生じている箇所がある。

場所 K005. 辻の岩屋～楠川分れ	調査年月 平成22年9月、平成29年10月
緯度 30.3601° 経度 130.5648° 標高 868.0m	荒廃・老朽化箇所の延長 5m×高さ1.4m
事業執行者(主な管理主体) 不在	登山道整備者 地元
位置図	状況写真




状況: i) ii)
 平成22年度と同様に、降雨時の流水により浸食がみられ、進行している。また、根の露出・浮き上がりがみられる。登山者は浸食箇所を避けて通るため、周囲への踏圧が懸念される。

注: i) 平成22年度以降荒廃が進行、ii) 高さ1m以上の浸食、iii) V字浸食、iv) 横断方向の浸食、v) 水たまり・ぬかるみ

図 荒廃箇所の一例

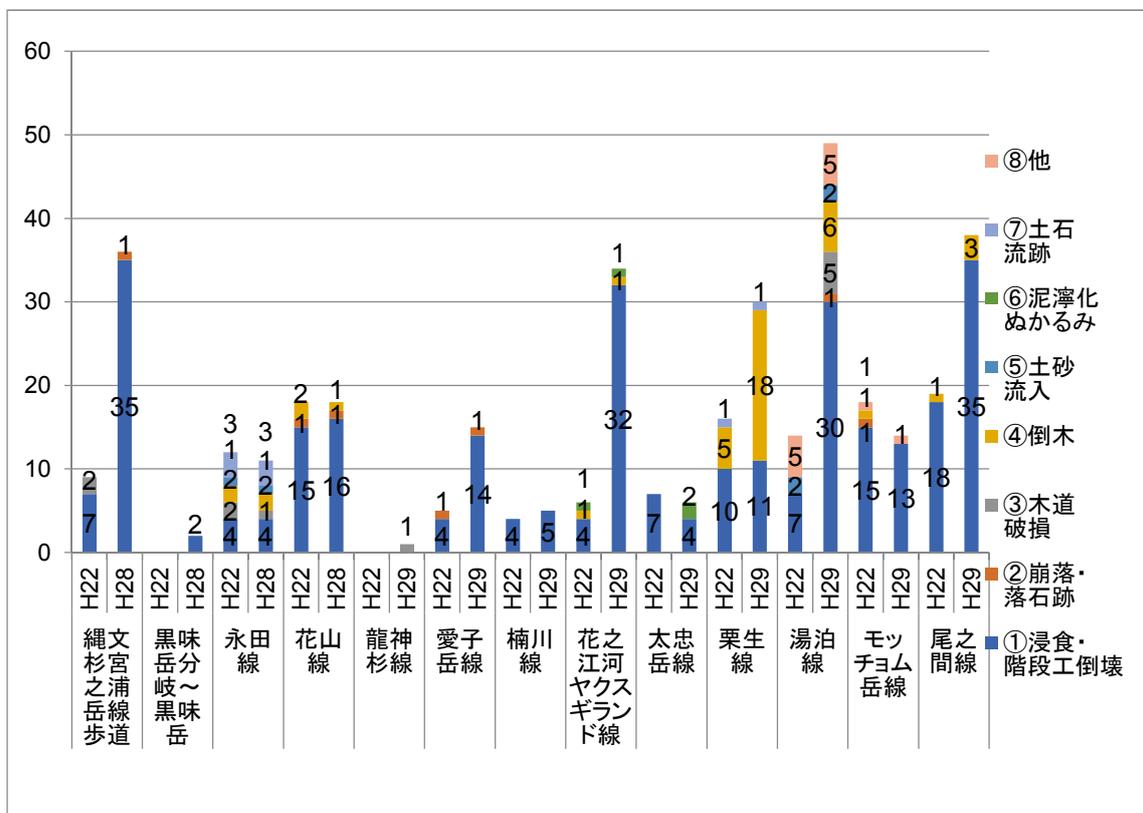


図 登山道の主な荒廃箇所推移 (平成22年度、28年度、29年度)